

早稲田大学 教育学部 日本史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	60分
特徴・その他	正誤問題が多いため、正確な知識と問題を慎重に解く能力が必要とされる。今年は史料問題の割合が少なかった。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
	延喜・天曆の治の土地政策	問1は班田制が確立した時期がわかっていないと解けない。庚寅年籍作成の後に班田は実施された。問4は難問だが、93年商学部でも出題されていた。戸籍関係は早稲田大ではよく扱われるテーマである。	標準
	室町時代の一揆	問2・4がやや難しい。問2「1440年に拳兵」とは結城合戦のこと。中世の一揆・戦国時代も早大入試の定番テーマ。	標準
	江戸幕府の宗教政策	問4・7・8がやや難しい。問4無効となったのは1615年以後の勅許。問9五榜の掲示のうちのキリスト教禁止の高札が撤廃された年。カンで解こう。	標準
	明治初期の諸政策	問1b「1881年」で解く。問2難問。問3「賞典禄」は一部の華・士族にのみ支給された。問6やや難しい。	標準
	近現代の雑題	問5・6は難問に見えるが、選択肢の一部を確定させればある程度絞り込める。しかも「麦と兵隊」は98年教育学部でも時期が問われていた。	標準

〔総合コメント〕

歴史事項をきちんと理解していなければ解けない問題がよく目につく。単なる用語暗記だけでは到底合格ラインに達しないのである。全体的に難しい問題に見えるかもしれないが、学習スタイルを変え、さらに早大入試の傾向を把握していれば高得点も十分可能である。試験当日に行われた解答速報会でも 85% 正解者が見られた。